

(3) 健康生態医学に関する分野を主として履修した場合

履修例1： 主科目として生殖周産期医学を選択し、副科目として、放射線診断治療学および生体情報薬理学の講義を選択した。関連する基礎的および先端的知識と技術習得するための共通科目として、生命倫理学、研究倫理、再生医療科学、医学研究セミナーの4科目を選択した例である。

履修例2： 主科目として健康増進予防医学を選択し、副科目として、先進医療学および社会環境保健医学の講義を選択した。関連する基礎的および先端的知識と技術習得するための共通科目として、医の倫理、医学統計学、疫学・臨床疫学、英語論文作成法の4科目を選択した例である。

		授業科目の名称	単位数	履修例1	履修例2
授業科目の概要	専門科目 (主科目)	(健康生態医学分野)			
		生殖周産期医学講義	4	○	
		生殖周産期医学演習	4	○	
		生殖周産期医学実験実習	4	○	
		健康増進予防医学講義	4		○
		健康増進予防医学演習	4		○
	専門科目 (副科目)	健康増進予防医学実験実習	4		○
		(生体機能形態医学分野)			
		先進医療学講義	4		○
		放射線診断治療学講義	4	○	
		(生体制御医学分野)			
	生体情報薬理学講義	4	○		
	共通科目	(健康生態医学分野)			
		社会環境保健医学講義	4		○
(共通科目)					
医の倫理		1		○	
生命倫理学		1	○		
医学統計学		1		○	
研究倫理		1	○		
疫学・臨床疫学		1		○	
分子生物学入門		1			
実験動物学		1			
再生医療科学		1	○		
臓器移植学		1			
英語論文作成法	1		○		
医学研究セミナー	1	○			
特別研究	生命医科学特別研究	6	○	○	
合計修得単位数				30	30